

創刊五十年記念特輯号刊行の辞

浅尾 広 良

大阪大谷大学文学部日本語日本文学科（旧国文学科）は昭和四十一年、本学（旧大谷女子大学）開学とともに創設されました。大学をめぐる環境が激変し、全国各地で日本語学や日本文学に関わる研究機関が改組・改編、場合によっては廃止されるなか、本学科が半世紀以上にわたり研究・教育の場として歴史を刻んできたことは、私たちの大きな誇りとするところであります。本学科は、名称変更を伴いながらも、大阪大谷大学内で開学当初の体制を受け継ぐ唯一の学科として、伝統を今に受け継いでおります。

『大阪大谷国文』の前誌『大谷女子大國文』が本学国文学会の機関紙として創刊されたのは昭和四十六年三月のことです。「創刊の辞」には、春秋二季の学会行事や四つの文学研究会を通してたゆまぬ努力を続けてきたこと、昭和四十五年三月に第一期の卒業生を世に送り、雑誌創刊の機運が熟したことなど、発刊の経緯が熱く語られています。本学の共学化に伴い、平成十九年三月、雑誌名は『大阪大谷国文』に変更しましたが、国語・国文学研究の論文誌として逐次充実をはかっていきたいという創刊の志を受け継ぎ、半世紀にわたり号を重ね、今年創刊五十年を迎えることができました。

この節目の年にあたって特輯号を組み、本学科の歩みを改めてふりかえってはどうかという声が学科内でありました。そこで企画をまとめるべく検討を進め、本学教員による論文に加え、OBの先生方・現職教員・卒業生による寄稿文、半世紀にわたる学科の歴史、年表、論文目録をまとめることになりました。

た。寄稿文では学科に関わるさまざまなエピソードの執筆をお願いし、半世紀の歩みをふりかえる一助といたしました。こうしてまとまったのが本特輯号です。

申し上げるまでもなく、本学科がここまで歴史を重ねることができたのは、多くの方々から頂戴した御芳情の賜物です。特に本学科において多年にわたり教鞭を執ってくださいだったOBの先生方の御尽力なくして、その伝統を継承することはかないませんでした。また卒業生の皆さんは、学科の歴史と共にある貴重な存在です。今回の企画では、社会のさまざまな分野で活躍する卒業生のうち、本学の事務職員として勤務されている方々に声をかけました。

表紙の題字は、本学科卒業生で書家の木本恵子先生に揮毫していただきました。木本先生には長年、本学科の書道関連科目の御担当をお願いしております。題字の揮毫にあたり先生には、学科の雰囲気合う書風をお選びいただきました。

このように多くの皆様の御尽力により、今回の創刊五十年記念特輯号は刊行する運びとなりました。御多忙中、筆を執ってくださいました諸先生方、卒業生の方々に心より厚く御礼申し上げます。

本特輯号を一つの里程碑としつつ、半世紀にわたる歴史の重みを受け継ぎ、日本語日本文学科の今後さらなる発展を目指してまいります。

(本学学長)